

高岡の図書館

第107号

2021. 9. 1

編集・発行 高岡市立中央図書館（〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7） TEL 0766 (20) 1818 FAX 0766 (20) 1819

本を「よむ」楽しみ

高岡市教育委員会 教育長 近 藤 智 久

読書に親しむ習慣のさほどない私だが、そんな私にも食るように本を読んだ時期がある。

最初は、小学校6年生の時のことである。二学期になって私のクラスの清掃分担に図書室が割り当てられるようになった。その掃除当番が私の班に回ってきた。棚にはとてもたくさんの本が並んでいた。掃除を手早く済ませて、余った時間にみんなで思い思いに本を読むのが楽しみだった。ある日、たまたま近くの棚にあった一冊の伝記を手にとった。今となっては誰の伝記だったのかは覚えていないが、とにかく、それがきっかけだった。それから、しばらく、昼休みの図書室通いが始まった。大きな本棚の2段ほどに渡って並べられていた伝記を端から順に読んでいった。時間いっぱい読めるだけ読んで棚に戻し、次の日、図書室に行っては続きを読んだ。昼休みは体育館でバスケットボールや鬼ごっこなどを過ごすことがほとんどだった私が、友達から体育館に誘われてもそれを断って通い詰め、収められていた伝記を全て読み通した。

二度目は、高校3年生のことである。当時、特に冬の間は、電車の待ち時間に駅の2階の改札口を出てすぐのところにある書店に立ち寄るのが常だった。それは、本目当てというよりは、むしろ寒さ凌ぎのためだった。棚の間をうろろとしながら、何となく本や雑誌を眺めていた。そんなある日、いつもは行かない一番奥にある棚のところに足を運んだ。そこでずらりと並んだシリーズの単行本の列に目が釘付けになった。それは、全26巻にも

及ぶ山岡荘八氏の歴史小説「徳川家康」だった。それほどの長編を見たのは初めてだった。思わず手に取りページを開いた。とにかく読みたくて、まずは第1巻を手にとってレジに向かった。家に帰り電気スタンドの明かりの下、300ページ近くあるその本を一晩で読み切った。翌日、駅に着くと書店にすぐさま駆け込んで、第2巻を購入した。そんなことを繰り返し、一月ほどでとうとう全26巻を読み通した。本当に面白かった。時代の大きな流れの中で生きて生き抜く登場人物の一人一人に強く惹きつけられた。

あの時に読んだこと、感じたことが今の私にどのように影響しているのか、それは未だもってよく分からない。だが、当時の私は、素直に本に惹きつけられ引き込まれていった。もしかしたらそこに描かれた人たちの様々な生き方に触れることを通して、無意識のうちに何かを得ようとしていたのかもしれない。近頃の私は、たまに書店などに出かけると、どうしても仕事に関係のありそうな、いわゆる実用書を手にすることが多い。本を「よむ」というよりは本を見て情報を得たり確認したりするということが多く、本の内容を感じて大切に思い自分の中に取り込んでいくこと、すなわち「よむ」ということにはあまりなっていないように思う。でもいずれ、心に響き自然と引き込まれるように読み耽る本との出会いがきっとあるに違いない。そのことを楽しみに、これからも本と触れる機会を大切にしていきたい。

だっこで愛の読み聞かせ

ブックスタート・ボランティア 高岡らっこの会 会長 竹内 ときえ

「ブックスタート」とは

「ブックスタート」は、絵本をプレゼントし赤ちゃん絵本との出会いをつくる運動です。1992年（平成4年）英国第2の都市であるバーミンガム市で始まりました。

日本版「ブックスタート」とは

2000年（平成12）の「子ども読書年」をきっかけに、児童図書館関係者や児童図書出版業界等が中心となってNPO「ブックスタート支援センター」が設立されました。心を育てる読書運動として、長期的に推進。絵本をとおして、すべての赤ちゃん保護者が、楽しいひとときを持つことを目指します。

ブックスタートボランティア

「高岡らっこの会」

2021年（令和3）3月末で、「高岡らっこの会」の活動は、満20年になりました。2001年（平成13）4月12日に最初の活動をした3か月児健診時の赤ちゃんは、成人式を迎えました。現在40名の心強い会員に支えられて活動を続けています。

会設立のきっかけは、まず2000年（平成12）が「子ども読書年」であったこと。

また、この頃は、青少年を取り巻く悲惨な事件や、幼児虐待が度々報じられる世の中でした。そのことを憂い、絵本を通して親子で楽しいひとときを持ち、“心の栄養素”を取り入れ、子ども達が心豊かに、そして、自分の頭で考えられるように育ってくれることを願い、ブックスタート活動に取り組むこととしました。

最初は閑文苑堂書店から絵本と布製バッグの支援を受け、図書館や保健センターの協力も得てブックスタート・ボランティア「高岡らっこの会」を発足し、会員のための研修会も富山県立保育専門学院（当時）の先生等に子どもや読書について幾度か講義していただきながら、ブックスタート活動を開始しました。現在は、高岡市から赤ちゃん一人に1冊の絵本を提供していただき活動しています。

活動開始時の平成13年の高岡市の出生数は年間約1500人でした。近年は、残念ながら少子化が進み少なくなっています。

私たちの活動内容は、3か月児健診終了後の全ての赤ちゃん保護者に、絵本の読み聞かせをし、「赤ちゃん絵本を開く時間の喜びと大切さ」や、「地域が子育てを応援している」等を伝え、絵本や子育て支援情報等の冊子が入ったバッグをプレゼントすることです。

健診を終わられた方から順に健診会場の隣にある絵本の部屋に寄っていただき、赤ちゃんを布団の上に寝かせるか、保護者の方にだっこしてもらってプレゼントする絵本の読み聞かせをします。

初めての活動では、思いのほか赤ちゃんに表情があるのに驚きました。絵本を読む会員の口元を見つめてニコリとしたり、目を丸くして理解しているように声を発する子もいたのです。健診で疲れた赤ちゃんは眠っていることも多く、その時は保護者の方に絵本を読んであげますが、「子どものころに返ったようで、うれしい。」と言ってくれる方もたくさんおられ、私たちは元気をもらいました。

私たちは、ブックスタート以外の活動もしています。4月23日の「子ども読書の日」にちなんで、8年間かけて高岡市内のすべての保育園と幼稚園へ出かけ、大型絵本の読み聞かせや手遊びをしてきました。

また“らっこクラブ”と名付けて、年間6回、3才までの親子を対象にして、保健センター内の“すくすく”の部屋や御旅屋セリオでの子ども広場でも活動しています。内容は、会員による作詞作曲振り付けの“らっこ体操”をし、大型絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム体操等ですが、活動をとおして、参加された親子の友だち作りのお手伝いも出来たらと思っています。

こうしてブックスタート・ボランティアの活動を続けている内に、周囲から共感していただけたのか、2007年（平成19）に北陸ライオンズクラブの50周年記念事業の一環として「ひと・まち・文化賞」を、全国出版協会からは第1

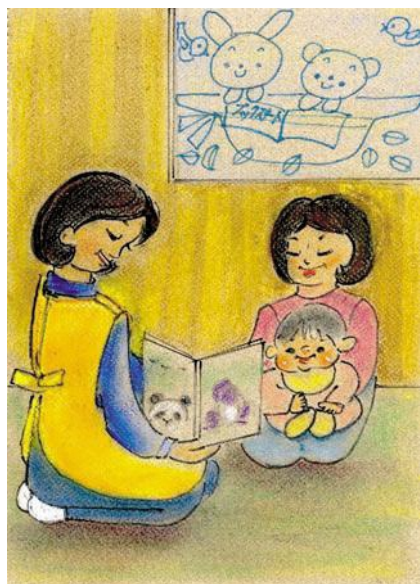
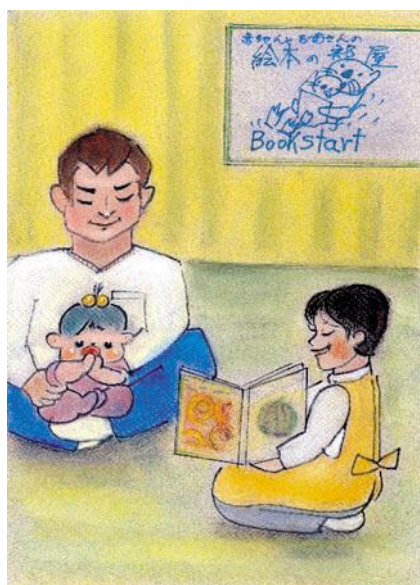
回「文字・活字文化推進大賞」をいただきました。2011年（平成23）には「子どもの読書活動優秀実践団体」で文部科学大臣表彰、富山県から「子育て支援とやま賞」をいただき、会員の励みとなりました。

新しい情報を得ながら、仲間の親睦も図るために会員の研修を企画し、話題になっている近隣の図書館等の視察もしています。

ITが全てではなく、手に取ることにより生まれる絵本の良さ、大切さを、高岡市内に生まれてきた全ての赤ちゃんに伝えられるように会員一同心を尽くし、この活動がいつまでも続いていくことを願っています。

最後になりましたが、お世話になった方々に深く感謝申し上げます。

高岡らっこの会 20年のあゆみ



ブックスタート会場での絵本の読み聞かせ

（画：高岡らっこの会）

平成13年	1月ボランティア「高岡らっこの会」設立 3月ブックスタート研修会 4月12日ブックスタートボランティア活動開始 高岡子育て支援マップを制作し、絵本等とプレゼント 図書館ボランティア養成講座受講
平成14年	県内外図書館等視察研修を実施（毎年実施） 第45回「読みなかまの集い富山県大会」に参加（毎年参加）
平成15年	2歳からのおすすめ絵本冊子「えほんは好きですか？」の配布
平成18年	福岡町ブックスタートボランティア活動
平成19年	北陸ライオンズ50周年記念「ひと・まち・文化賞」受賞 全国出版協会第1回「文字・活字文化推進大賞」受賞 大賞受賞記念「絵本の読み聞かせ会」開催 志貴野高校読み聞かせ指導に協力
平成20年	西部公民館「ヤングママセミナー」に協力
平成22年	「とやまっ子みらいフェスタ2010 in 高岡」に参加
平成23年	10周年記念・大臣表彰記念「読み聞かせ会」開催 「子ども読書活動優秀実践団体」文部科学大臣表彰受賞 創立10周年・「文部科学大臣表彰」記念祝賀会開催 「子育て支援 とやま賞」受賞 中田図書館「秋の読み聞かせ会」に協力 KNB「こんにちは富山県」で“みんなで支える子育て”活動放映
平成24年	「子ども読書の日」の「出前大型絵本の読み聞かせ会」以降平成31年まで ～東北に心を寄せて～ チャリティーフェスティバル「絵本ランド」協力
平成25年	大型絵本読み聞かせ 高岡子育て支援センターにて以降月1回 「14歳の挑戦」の中学生が「ブックスタート活動」を見学
平成26年	「じんじん」映画上映会 (ウイング・ウイング高岡4Fホールにて)
平成27年	「高岡らっこの会」15周年記念事業「らっこクラブ」活動開始
平成29年	かたかごファクトリー「まごころまつり」に参加
平成30年	「春の能作フェスタ・絵本の読み聞かせ」に参加
令和元年	「男女平等EXPO 高岡 2019 みんなが笑顔になれる場所」で読み聞かせ協力
令和2年	「オタヤ子ども広場」で絵本の読み聞かせ協力
令和3年	20周年記念誌「20周年のあゆみ」発刊

ふるさと情報コーナー

高岡関係資料情報

令和元年度に発行された図書、雑誌及び新聞に掲載された高岡関係資料のうち、図書館で把握できた文献の一部を紹介いたします。配列はおおむね富山県郷土資料分類表に準じ、論題名・執筆者名（敬称略）・資料名・巻号数・出版年月の順に記載しました。

- 富山県の誕生 (浦田正吉著 青春編集編 楓工房刊 令和元年5月)
- たかおか歴史の旅 謎解き不思議発見 (中島利明著 北日本新聞社刊 令和元年7月)
- 前田利長書状展 高岡開町 410 年記念特別展 (高岡市立博物館編刊 令和元年7月)
- 北日本川柳大会 50 周年記念・記録集
北日本川柳大会 50 周年記念・記録集編集委員会編 川柳えんぴつ社刊 令和元年9月)
- 50 年のあゆみ 高岡市交通指導員連絡協議会発足 50 周年記念誌
(50 周年記念冊子準備委員会編 高岡市交通指導員連絡協議会刊 令和元年10月)
- 故郷高岡で市民とともに (太田久夫[ほか]編 佐藤孝志元高岡市長を偲ぶ会刊 令和元年11月)
- 富山産業観光図鑑 2020 モノづくり県富山を紹介
(富山県広域産業観光推進委員会編刊 令和2年1月)
- 古里を語る・資料集 (大菅正博編著 古里研究会刊 令和2年3月)
- 高岡市史料集 第31集 逸見家文書より (高岡市立中央図書館編刊 令和2年3月)
- 高岡市万葉歴史館紀要 第30号 (高岡市万葉歴史館編刊 令和2年3月)
- 語り継ぎたい昭和の福岡町 (矢竹有至、中村英一編 福岡地区自治会連絡協議会刊 令和2年3月)
- 「世界で最も美しい湾クラブ」と富山湾
(高桑幸一[著]富山県観光・交通振興局観光振興室編刊 令和2年3月)
- 伏木海陸運送「創立 75 周年記念館」 港の歩み貴重な記録(探訪 展・知・ひと)
(朝日新聞 令和元年6月7日)
- 「俳句の神社」再建 100 周年で光 芭蕉門下の尾崎康工ゆかり
高岡・戸出野神社 歴史資料や写真収集 (富山新聞 令和元年6月11日)
- 富山県のトンボ(2018 年度記録) (富山市科学博物館研究報告 43 号 令和元年7月)
- クレーン登録文化財に 伏木港 文化審が答申「陸揚げ専用」全国初 (北日本新聞 令和元年7月20日)
- 異文化交流深める 伏木高 中・韓の友好校生徒と (北日本新聞 令和元年7月23日)
- 護衛艦かが伏木港入り 開港 120 周年 高岡 加賀藩の港町、1 千人が歓迎
(富山新聞 令和元年7月27日)
- すげ笠 進化と継承 竹骨なくし収納OK・洋服に合う 国内の9割生産
高岡・福岡地域 (朝日新聞 令和元年9月6日)
- 北前船の歴史と昆布貿易/伏木北前船資料館 (富山写真語 万華鏡 304 号 令和2年3月)
- 小杉丸山遺跡と勝興寺付近の関係性 11 キロ先の伏木へ瓦供給
越中仏教の始まり示す(西部ふしぎ散歩) (北日本新聞 令和2年3月28日)
- 岸渡川沿いに桜 100 本 高岡・林照寺女性の会 募金順調、2 年早く達成 あす福岡小近くで植樹
(富山新聞 令和2年3月28日)

富山県立図書館ホームページ「とやまの本」及び「県内記事情報検索」より

||||| 調査相談の窓口から |||||

…… おたずねくださいQ&A (福岡図書館) ……

福岡図書館に寄せられた質問の中から、郷土に関するものを紹介します。今回は郷土の質問を紹介しますが、郷土関係以外の質問も寄せられています。図書館業務の中ではあまり知られていないサービスですが、調べ物の補助を行うもので、資料を提示する形でお答えしています。ご利用お待ちしております。

レファレンスの例

Q：旧地名の（１）「氷見仕切町」、（２）「射水郡能町六渡寺新 231 番地」は、現在のどこにあたるか知りたい。

A：（１）氷見仕切町

『角川地名大辞典 16』によれば、「仕切」の項に町の変遷についての記述があり、「現行の地蔵町・南大町の各一部」と分かる。また、『日本歴史地名大系 16』や『氷見市地名の研究』にも記述がある。

（２）射水郡能町六渡寺新 231 番地

『角川地名大辞典 16』によれば、「六渡寺新」の項に町の変遷についての記述があり、「高岡市吉久 3 丁目の一部」と分かる。また、『日本歴史地名大系 16』では、「現高岡市六渡寺新、吉久 3 丁目」とある。短時間での回答を希望されたので、当館所蔵の資料のみで対応したものである。

Q：福岡町の、各地区（福岡町合併前の町・村）の町名、区域が分かる地図はないか。

A：各地区の区分は明治 22 年(1899)に実施された町村制が基となっており、福岡町は、昭和 29 年(1954)に合併するまで、福岡町、山王村、大滝村、西五位村、五位村、赤丸村に分かれていた。それぞれの区域に属する町名・集落名は『福岡町史』、『福岡町史続編』、『福岡町の古代』等で確認することができる。

それぞれの区域を構成する町(大字)が分かる資料は直ぐにみつけるのだが、区域を表した地図は、概略図しか見つからなかった。町名の記載された地図と区域を表した地図を照らし合わせてもらうしかないとをお伝えした。

質問者に提示した資料名とその内容について記載する。

- 『わたしたちの福岡町』
福岡町の地区別地図（白地図）、各地域の簡略な地図が載っている。
- 『富山県高岡市福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅳ』
「調査地区割図」が掲載されているが、福岡地区と山王地区がまとめられており、その境が分からないものとなっている。
- 『北陸道路地図』（昭文社）
地区ごとに色分けされているので、大凡の区域が分かる。

Q：西山丘陵の清水山から城ヶ平山付近の地質について知りたい。『福岡町史』以外の資料を探している。

A：『富山大百科事典 下』には、「富山県地質図」が掲載されているのだが、その図・注釈によれば赤丸地区の丘陵は「新第三紀層」とされ、「新第三紀（2303 万年前～258 万年前）後期、日本海の拡大がほぼ完了した後に寒流系の環境下で形成した堆積物。寒流系動物化石を含む」との説明がある。

『富山県の地形・地質』及び『10 万分の 1 富山県地質図説明書』によれば、城ヶ平山は「氷見累層（頭川層）」に属しており、二枚貝・巻貝の化石が見られ冷たい海の時代に堆積したとの記述がある。

また、『福岡の大地』（福岡小学校副教材）や『富山福岡西山丘陵整備基本構想』には、『福岡町史』に掲載されている地質図が引用されており、『福岡の大地』には、各地層の説明や写真が掲載されている。

質問者には上記の 5 冊をお見せした。

（村本 雅美 記）



こんにちは、高岡の地域図書館です！

4つの館の活動をシリーズで順に紹介します。第2回目は、**中田図書館**です。

中田図書館は昭和31年(1956年)10月に、万年寺境内に設置された「中田町立図書館」が始まりです。昭和36年に旧法務局中田出張所跡へ移転し、昭和41年に東礪波郡中田町が高岡市に編入して「高岡市立中田図書館」と改称されました。その後、幾度かの移転を経て、平成22年に新築された中田コミュニティセンターの1階へ移転し、現在に至ります。

◆学校等との連携

中田コミュニティセンター内には児童育成クラブがあり、放課後多くの子どもたちが集まってきます。毎月第4水曜日に中田図書館職員とボランティアが訪問し、絵本の読み聞かせや紙芝居などを行っています。

また、中学生の職場体験活動「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」では、毎年中田中学校の2年生を受け入れ、書架整理やPOP作り、絵本の読み聞かせなど様々な業務を体験してもらいます。



雑誌リサイクル市

◆地域との連携

「中田町読書会」は、毎月第2水曜日に中田コミュニティセンターで読書会活動を行っています。中田図書館ではテキストとして使用する富山県立図書館所蔵資料を仲介し、その活動を支援しています。

毎年11月の「中田の文化祭」が行われる期間には「雑誌リサイクル市」を行っています。文化祭当日を含む約10日間で、用意した雑誌やその付録等を無償で提供します。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で様々な行事がやむを得ず中止となり、せっかくの連携の機会が失われることとなりました。また以前のように、連携や交流ができることを願っています。



中田町読書会

◆特色あるコーナー

中田図書館には「三島霜川^{そうせん}コーナー」があります。三島霜川は、明治9年(1876年)東礪波郡中田町下麻生(現高岡市下麻生)生まれの作家・劇評家で、明治期の文壇で活躍しました。当館が中田コミュニティセンターへ移転した平成22年に設置されました。

◆「ホタル」に関する企画展示

中田地区では、昭和45年に「トミヨとゲンジボタル及びヘイケボタル生息地」として県の天然記念物に指定されました。そして、昭和51年に中田中学校科学部の「ゲンジボタルの研究」が日本学生科学賞内閣総理大臣賞を受賞しました。さらに、平成16年には全国ホタル研究大会高岡大会が開催され、中田地区はホタル鑑賞や講演会の会場となりました。

中田地区では、長年にわたってホタルの保全活動に取り組んでいます。また、中田図書館においても、毎年夏にホタル関連の資料を展示しています。

(作井 美佐子 記)

未知なる病魔との戦い

令和2年（2020年）初頭に流行の兆しを見せ、その後、瞬く間に全世界に感染が広がった新型コロナウイルス。令和3年（2021年）に入り、ワクチン接種が開始されたが、感染状況が収まる様子は未だ見られない。

未知の病気が流行し、人類が脅かされたのは今回が初めてではない。ヨーロッパでは、ペスト、コレラ及び結核などの伝染病の流行によって、数年で数千万人もの人間が死亡することがあった。また、日本も例外ではなく、19世紀初頭にコレラが流行し、数多くの人が命を落とした。

未知の病魔が現れ、そのたびに人々は恐怖した。だが、人類は病魔と果敢に戦い克服した歴史がある。今回は郷土の先人たちが記録した病魔との戦いを追懐する。

【麻疹（はしか）】 ※麻疹（ましん）ともいう

はしかウイルスの感染で起こる急性発疹性伝染病で、小児が感染しやすい。咳などとともにウイルスが空中に飛び散り、それを吸って感染する。潜伏期は11日前後で、急に発熱し、咳が出る。また、合併症を併発する可能性が高く、肺炎や脳炎の併発によって命を落とす危険性がある。

記録が確認できる中世以前から流行していたようで、薬の調合方法が伝えられている。

戸出地域においては、享和3年（1803年）及び文久2年（1862年）に大流行していたと記録されている。享和3年の流行時には、加賀藩から医者が派遣されたが沈静化する様子は無く、砺波郡全体に薬剤が配布された。

【天然痘（てんねんとう）】 ※痘瘡（ほうそう）ともいう

天然痘ウイルスによって起こる伝染病で、死亡率は高い。患者との直接接触、また、患者の分泌物で汚染された物品からの間接接触により感染する。潜伏期は10日前後で急に高熱を発生し、痘疹（とうしん）が現れる。痘疹は全身にでき、しだいに水ぶくれとなり、さらに化膿して膿疱（のうほう）となり、やがてかさぶたを生じる。

天然痘が日本で最初に流行したのは天平7年（753年）で、九州を中心に猛威を振るった。富山県では、文政9年（1826年）、天保14年（1843年）、安政3年（1856年）及び安政6年（1859年）に流行したと記録されている。

上記のころ、痘瘡の予防接種に当たる種痘（しゅとう）が日本へ伝来した。種痘は国内でも研究され、そして各地へ伝搬された。ちなみに加賀藩では文久2年（1862年）に、医師黒川良安が郡方の医師に種痘を伝授している。

【コレラ】

コレラ菌の感染により激しい胃痛症状を示す急性伝染病。汚染された水や食物が経口的に取り込まれ、コレラ菌が腸内で増殖し腸粘膜を冒す。感染後数日経過すると、急に激しい下痢及び嘔吐がある。さらに、左記の症状により、脱水症状や腓腹筋のけいれんなどの症状に見舞われる。

世界規模で幾度かの大流行に見舞われ、そのたびに多くの人が命を落とした。

日本では、安政5年（1858年）に江戸で大流行し、全国に蔓延した。富山県、また戸出地域も例外では無く、多くの人間が罹患して死亡した。江戸幕府は治療薬を伝搬させたが、決定的な沈静化に至らず、人々は祈祷して病魔の沈静を祈った。

その後、安政6年（1859年）及び文久2年（1862年）に再びコレラが流行したが、人々は祈祷して病魔の沈静を祈るしかなかった。

明治及び大正期にもコレラが流行した。明治12年（1879年）に流行した際は感染拡大予防策及び治療法が研究されていた。しかし、市井の人はそれよりも根拠の無い療法や迷信を信じていたためか患者が続出して、大多数の死者が発生する惨事となった。大正期にコレラが流行した際は、これまでの経験と厳重な予防対策が実施されたおかげか、呉西地区（富山県の西側の地域）では患者は発生しなかった。

【古中の大地蔵】

戸出町4丁目の旧戸出石動街道沿いに、高さ2.43メートル、幅1.24メートルの大きな地蔵が安置されている。「古中の大地蔵さん」または「戸出大佛」とも紹介される。

御堂の前には「南無古中大地蔵菩薩由来」と彫られた由来札が立っている。それによると、戸出の地でもコレラが流行し多数の病死者を出した。特に乳幼児にかかる者が多く、供養と悪病退散を祈願した町内の人々が浄財を持ち寄り、慶応3年（1867年）に建立したとある。8月25日の祭日には、出生児の息災を祝い幟旗と供え物とで盛大に祭っていた。現在も婦人会、児童クラブ、町内有志により永々と続けられている。



<参考資料>

『戸出町史』『高岡市史』
『日本疫病図説』『最新医学全書』『旺文社百科事典エゴカ』
『戸出を語る石仏・石碑』

（櫻井 佑歩 記）

お知らせ



行事予定(変更になる場合があります)

中央図書館

- えほんのじかん 毎週火～金曜日
(休日を除く)
午前11時～15分程度
- えほんの広場 毎週土、日曜日、休日
午前11時～30分程度
- 土曜おはなし会 午後2時～2時30分
第1土曜日 高岡おはなしの会
第2土曜日 図書館ボランティア
第3土曜日 チルドレンズシアター
(高岡第一学園
幼稚園教諭・保育士養成所/年4回)
- 第4土曜日 人形劇団どんぐりコロコロ
第5土曜日 劇団「喜び」
- 高岡婦人読書会 毎月第3水曜日 午後2時～
「古文書を学ぶ会」 年4回開催
午前10時～11時30分(受講受付締切りました)

伏木図書館

- こども読み聞かせ会 毎週土曜日 午前11時～
古典の会 毎月第2日曜日 午前10時～
読書会 毎月第3土曜日 午後1時30分～

戸出図書館

- こども読み聞かせ会 毎週土曜日 午前11時～

中田図書館

- 子ども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前10時30分～

福岡図書館

- おはなしの部屋(読み聞かせ等) 毎週土曜日
午前11時～

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、上記の内容が中止・延期となる場合があります。
最新の実施状況は、図書館のホームページを確認するか、お電話などでお問合せ下さい。

令和3年度の中央図書館の活動を紹介します

〔古文書関係の事業〕

○古文書解説事業

中央図書館所蔵の古文書を解説し、『高岡市史料集』として発刊します。

○古文書を学ぶ会

中央図書館所蔵の古文書をテキストとして、近世の高岡の様子を学びます。今年度は、「木町の『御書』を読む」をテーマに取り上げ、年4回開催します。

○高岡市史料集解説講座

毎年3月発刊の『高岡市史料集』の解説文に基づき解説します。
年1回開催します。

「高岡の魅力発信

デジタルアーカイブ事業」

中央図書館が所蔵する江戸期以降の郷土史を知るのに貴重な古文書をアーカイブ化し、ホームページ上に公開します。アクセスし易くすることで、高岡の魅力を再発見し、次世代につなげます。

〔学校との連携事業〕

子どもの読書活動推進の一環として、高岡市内の小・中・義務教育学校、特別支援学校との連携を更に進め、次の事業を展開しています。

①わくわくブックトーク

図書館職員とボランティア会員が小学校等を訪問し、低学年の児童を対象にブックトークを実施します。

②図書館ツアー事業

児童を中央図書館に招待し、施設の機能や使い方について説明します。

③ふるさと高岡巡回文庫

高岡ゆかりの人物の関連図書を小学校等に巡回させ、ふるさと高岡への愛着心を育みます。

④学校における個人貸出

従来の授業を支援するための団体貸出に加え、児童や教員が学校図書館を通じて中央図書館の本を借りられます。

高岡市立中央図書館 〒933-0023 末広町1-7
高岡市立伏木図書館 〒933-0104 伏木湊町13-1
高岡市立戸出図書館 〒939-1104 戸出町3-19-29
高岡市立中田図書館 〒939-1272 下麻生1108
高岡市立福岡図書館 〒939-0132 福岡町大滝44

TEL (0766) 20-1818 FAX (0766) 20-1819
TEL (0766) 44-0073 FAX (0766) 44-0073
TEL (0766) 63-1254 FAX (0766) 63-1254
TEL (0766) 36-0054 FAX (0766) 36-0054
TEL (0766) 64-1034 FAX (0766) 64-1038